



キーのプロトタイプ

### どこでもドラム

岡根慎治（奈良先端科学技術大学院大学）

狭い日本の家屋にとって場所をとり、やかましい音を出すドラムはとて一家に一台というわけにはいかない。

このどこでもドラムシステムは、加速度センサと位置センサを備え付けられたスティックデバイスを空中で振り回すことで、ドラムの音をだすことができる。このシステムであれば、多少狭い部屋で、周りへの騒音を気にすることなくドラムプレイの気分を味わうことができる。

体験者は加速度センサが設置されたスティックデバイスを持ち、これを空中で振り回すことによってドラム音を鳴らす。あらかじめ空間の各所にドラムパートを割り振っておき、操作者がスティックを振った場所によって、音色が異なるようになっている。

### まとめにかえて

IVRC2002は以上のように、10年目を記念するにふさわしく盛大に開催することができた。結果的に優勝は「The Dimension Book」が勝ち取ったが、三度にわたるステージそれぞれにおいて、激しい戦いが繰り広げられた。プレゼンテーションのわずかな票差で具現化のチャンスを得られなかった企画、惜しくも最終選考を逃した作品など多々あり残念でもあるが、まさに日本一のVR作品を競う場として、クオリティの高い、品格あるコンテストに止揚できたと感じている。

現在、優勝作品を始めとして、いくつかの作品が米国SIGGRAPHへの投稿や学術論文文化など、さらなる挑戦を進めている。デバイス、ソフトウェア、デザイン、企画やフットワークの複合技術で力を合わせた彼らが、この経験を糧に、今後どのように成長し活躍していくのか、楽しみである。

最後に、IVRC2002をご支援いただいた、協賛企業各社、岐阜県、各務原市、イメージ情報科学研究所、作家、審査員の皆様、そして共に苦楽を分かち合ったコンテスト委員会、ボランティア各位に多大なる感謝の気持ちを記しつつ、まとめに代えさせていただきます。